

- 問1 飛鳥時代において、白村江の戦いの後に唐や新羅の侵攻に備えて整備された、大宰府を防衛するための施設に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 幕府の権威を示すために、全国の権現造の建築にならった豪華な社殿を造営した。 | 2. 山頂に城塞を築き、平野部には巨大な土塁と堀からなる防塁を設置して守りを固めた。 | 3. 中国の宋の技術を取り入れた大仏様という建築様式を用いて、頑丈な門を建設した。 | 4. 浄土信仰に基づいて阿弥陀堂を建立し、極楽浄土の様子を表現して国の平安を祈願した。 |
|--|--|---|---|
- 問2 7世紀の日本が遣隋使の派遣や大化の改新を経て、急速に律令制度を導入し、中央集権体制を確立しようとした背景について説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 山梨県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 元の襲来（元寇）を受けた経験から、九州沿岸の警備を強化するために中央から地方へ命令を伝える仕組みを整えたため。 | 2. 承久の乱によって朝廷の権威が失墜したため、天皇の力を再び強めるための新しい法律が必要になったため。 | 3. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。 | 4. 建武の新政において、公家と武士の双方を納得させるための新しい裁判基準を定める必要があったため。 |
|--|--|---|--|
- 問3 645年に中臣鎌足らと協力して蘇我氏を倒し、土地や人々を国家が直接支配する「公地公民」の仕組みを導入するなど、天皇中心の国づくりを目指した人物は誰ですか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 足利尊氏 | 2. 中大兄皇子 | 3. 徳川家康 | 4. 聖徳太子 |
|---------|----------|---------|---------|
- 問4 飛鳥時代に建立された法隆寺とその文化について、当時の政治や社会背景を説明した文として最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 最澄が唐から持ち帰った新しい仏教を広めるため、比叡山に修行の場として建立した。 | 2. 蘇我氏が天皇をしのぐ権力を示すため、日本で最初の大寺院として大仏の地に建立した。 | 3. 聖徳太子が仏教の力で国を治めようと考え、大陸の技術を取り入れて建立した。 | 4. 聖武天皇が国内の疫病や政情不安を鎮めるため、全国に国分寺を建てる一環として建立した。 |
|--|---|---|---|
- 問5 645年に起こった政治改革において、中臣鎌足（藤原鎌足）らとともに、権勢を振るっていた蘇我氏を倒し、後に天智天皇として即位した人物は誰ですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 1. 大海人皇子 | 2. 足利尊氏 | 3. 中大兄皇子 | 4. 聖徳太子 |
|----------|---------|----------|---------|
- 問6 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は中国の進んだ制度や文化を取り入れるために、当時の中国の王朝であった隋に使節を派遣しました。このとき、使節として派遣された人物を次の中から選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 小野妹子 | 2. 蘇我馬子 | 3. 中大兄皇子 | 4. 中臣鎌足 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問7 中大兄皇子が中心となって進めた「大化の改新」では、それまで有力な豪族が私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）が直接支配する仕組みへと改めようとした。この方針を何と呼びますか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1. 公地公民 | 2. 寄進地系荘園 | 3. 班田収授 | 4. 墾田永年私財 |
|---------|-----------|---------|-----------|
- 問8 聖徳太子が小野妹子を隋へ派遣した「遣隋使」の目的や当時の外交方針について述べた説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 朝鮮半島の百済が新羅に圧迫されていたため、隋の軍事力を借りて半島での勢力を回復しようとした。 | 2. 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、先進的な制度や仏教などの文化を吸収しようとした。 | 3. 中国の皇帝から王としての称号を授かり、その権威を背景に国内の豪族を統制しようとした。 | 4. 平城京の造営にあたり、隋の都である長安の都市計画を学ぶための専門家を招聘しようとした。 |
|---|---|---|--|
- 問9 聖徳太子（厩戸王）が建立したと伝えられ、現存する世界最古の木造建築物群である五重塔や金堂を有している、飛鳥文化を代表する寺院はどれですか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|------------|--------|--------|
| 1. 東大寺 | 2. 鹿苑寺（金閣） | 3. 平等院 | 4. 法隆寺 |
|--------|------------|--------|--------|
- 問10 7世紀前半の推古天皇の時代、聖徳太子（厩戸王）らによって進められた国家体制の整備とともに発展した飛鳥文化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 藤原頼通によって宇治に平等院鳳凰堂が建立され、極楽往生を願う浄土信仰が貴族の間に広まった。 | 2. 奥州藤原氏が陸奥国の平泉に中尊寺金色堂を建立し、北方の地における仏教の理想郷を目指した。 | 3. 現存する世界最古の木造建築物とされる法隆寺が建立され、大陸の影響を受けた仏教文化が花開いた。 | 4. 最澄によって比叡山に延暦寺が建てられ、平安京を守護する国家仏教としての役割を果たした。 |
|--|---|---|--|
- 問11 白村江の戦いが当時の日本の国内政治や国防に与えた影響について説明した文として、最も適切なものを選んでください。 (2025年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 唐との友好関係が決定的に悪化したため、これ以降、遣唐使の派遣は一切行われなくなった。 | 2. 唐や新羅の侵攻に備え、対馬や九州北部に防衛拠点を築くとともに、近江大津宮へと遷都して国家体制の整備を急いだ。 | 3. この戦いでの勝利をきっかけに、日本は朝鮮半島南部における領土的権益を確立し、大陸との交易を独占した。 | 4. 軍事力の限界を痛感した朝廷は、武士の集団を組織して国境の警備に当たらせる制度を全国的に導入した。 |
|---|---|---|---|
- 問12 7世紀、大化の改新を推進した中大兄皇子は、友好関係にあった百済を復興させるために朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、ある連合軍に大敗を喫しました。このとき、日本（倭）が戦った相手である連合軍の正しい組み合わせを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. 隋・新羅の連合軍 | 2. 元・高麗の連合軍 | 3. 唐・高句麗の連合軍 | 4. 唐・新羅の連合軍 |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
- 問13 律令国家の形成過程において「公地公民」という原則が示された目的として、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 仏教の教えに基づき、すべての土地は神仏のものであるとして、寺院が土地を管理する体制を作るため | 2. 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため | 3. 地方の豪族に一定の土地の支配権を残し、朝廷に協力的な姿勢をとらせることで内乱を防ぐため | 4. 農民の開墾意欲を高めるために、新しく耕した土地を永久にその人の私有地として認めるため |
|---|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 山頂に城塞を築き、平野部には巨大な土塁と掘かなる防塁を設置して守りを固めた。	白村江の戦い（663年）で敗れた後、大和政権は唐や新羅の侵攻に備えて、大宰府の北側に山城である大野城や、平地に巨大な土塁を築いた水城などを設置して防衛体制を整えました。その他の選択肢は、平安時代の平等院鳳凰堂、鎌倉時代の東大寺南大門、江戸時代の日光東照宮に関する説明となります。
問2	答え 3 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れたことで、対外的な脅威に対抗できる強力な国家体制を築く必要があったため。	663年の白村江の戦いでの大敗は、日本に唐などの強大な勢力による侵攻の危機感を与えました。これに対抗するため、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」を原則とする律令体制を整え、国力を結集できる仕組みを急いで作る必要があったのです。
問3	答え 2 中大兄皇子	蘇我氏を倒した「乙巳の変」から始まる一連の政治改革は「大化の改新」と呼ばれます。中大兄皇子は中臣鎌足（後の藤原鎌足）とともに、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家が管理する体制への転換を図りました。
問4	答え 3 聖徳太子が仏教の力で国を治めようと考え、大陸の技術を取り入れて建立した。	飛鳥時代は、聖徳太子や蘇我氏を中心となって、大陸の進んだ制度や仏教を積極的に取り入れた時代です。法隆寺の建立はその象徴であり、仏教を中心とした国づくりを目指す政治的背景がありました。聖武天皇による国家鎮護は奈良時代の「天平文化」、最澄による活動は平安時代の「弘仁・貞観文化」の説明です。
問5	答え 3 中大兄皇子	唐（中国）の制度に習い、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指して行われた改革が大化の改新です。中大兄皇子は蘇我入鹿らを排除することで、有力豪族による政治から、天皇が直接統治する仕組みへと転換を図りました。
問6	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、天皇を中心とした国づくりを推進するために、607年に遣隋使を派遣しました。派遣された人物は隋の皇帝に国書を届け、中国の進んだ政治制度や仏教文化を日本に持ち帰る役割を担いました。他の選択肢の人物は、いずれも飛鳥時代に活躍しましたが、使節として中国へ渡った記録はありません。
問7	答え 1 公地公民	唐（中国）の制度を参考にしたこの方針は、豪族による私的支配を否定し、国家の財政基盤を安定させるために導入されました。これにより、すべての民は国家の公民とされ、一定の土地を与えられる代わりに税を納める義務を負うという、律令国家の基礎が築かれました。
問8	答え 2 中国の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、先進的な制度や仏教などの文化を吸収しようとした。	聖徳太子による遣隋使の派遣は、それまでの「貢ぎ物を届けて地位を認めてもらう」形式から、中国と対等な立場で国交を結ぼうとする姿勢への転換を意味していました。小野妹子が持参した「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という国書の内容は、隋の煬帝を驚かせたと記録されています。
問9	答え 4 法隆寺	法隆寺は、推古天皇の摂政であった聖徳太子によって建立されたと伝えられています。その西院伽藍（金堂や五重塔など）は、飛鳥時代の仏教建築様式を今に伝える貴重な遺構であり、世界最古の木造建築物としてユネスコの世界遺産にも登録されています。東大寺は奈良時代（天平文化）、平等院は平安時代（国風文化）、鹿苑寺は室町時代の建築です。
問10	答え 3 現存する世界最古の木造建築物とされる法隆寺が建立され、大陸の影響を受けた仏教文化が花開いた。	法隆寺は聖徳太子によって建立されたと伝えられる奈良県斑鳩の寺院で、その西院伽藍は現存する世界最古の木造建築群として知られています。この時期の文化は「飛鳥文化」と呼ばれ、中国や朝鮮半島、さらにはその先の西アジアなどの影響を受けた国際色豊かな仏教文化であることが特徴です。他の選択肢にある延暦寺は平安時代初期、平等院鳳凰堂は平安時代中期、中尊寺金色堂は平安時代末期の建築物であり、時代背景が異なります。
問11	答え 2 唐や新羅の侵攻に備え、対馬や九州北部に防衛拠点を築くとともに、近江大津宮へと遷都して国家体制の整備を急いだ。	白村江での敗戦は日本に大きな危機感を与えました。天智天皇は防衛を強化するために水城などを築く一方で、海岸に近い難波から内陸の近江大津宮（滋賀県）へ遷都を行い、さらに戸籍（庚午年籍）の作成など、中央集権的な国づくりを加速させる要因となりました。なお、遣唐使はその後も日本の制度や文化を整えるために継続して派遣されています。
問12	答え 4 唐・新羅の連合軍	663年、日本は滅亡した百済を支援するために朝鮮半島へ出兵しましたが、白村江（はくすきのえ）の戦いで唐と新羅の連合軍に大敗しました。この敗北は、その後の日本の国内体制の整備や国防の強化に大きな影響を与えました。
問13	答え 2 豪族による土地や人民の私有を禁じ、朝廷が全国の土地と人民を直接把握することで、徴税や統治の基盤を固めるため	公地公民は、天皇を中心とした中央集権体制を確立するために導入された仕組みです。特定の豪族が土地や人民を私物化することを防ぎ、朝廷が全国の戸籍を作成して人民に土地を分け与える（班田収授法）ことで、租・庸・調などの税を安定的に徴収し、国家運営の財源を確保することを狙いとしていました。